

必ず携帯「お薬手帳」

お薬手帳は、複数の医療機関などを受診する際の服薬のチェック(相互作用、重複投与、副作用)に重要です。病院や薬局ごとに別々の手帳を作らず一冊にまとめ、受診の際には必ず携帯しましょう。

お薬手帳を常に携帯することで、災害時や救急時に正確な服薬情報を医師に伝えることができます。適正な治療のため、お薬手帳を利用してください。



問 保険医療課 医療保険年金係
☎ お太助フォン 42-5619

産前産後の保険料免除

免除期間	出産予定日、または出産日が属する月の前月から4か月間 ※多胎妊娠の場合は、出産予定日、または出産日が属する月の3か月前から6か月間
申請窓口	保険医療課医療保険年金係、または各支所窓口係 ※出産予定日の6か月前から申請できます。
対象者	国民年金第1号被保険者 ※妊娠85日(4か月)以上の出産が対象です(死産、流産、早産も含む)。
必要書類等	【出産前】母子健康手帳など 【出産後】被保険者と子が別世帯の場合は出生証明書など

詳しくは 日本年金機構ホームページ



問 三次年金事務所 ☎ 0824-62-3107

家計にやさしいジェネリック医薬品を使ってみませんか?

お薬代を節約できます。

ジェネリック医薬品は特許切れの新薬をもとに、開発期間やコストを削減して作られるため、お薬によっては自己負担額が **3~5割も安くなる**ことがあります。

ジェネリック医薬品については、医師・薬剤師にお気軽にご相談ください。

7月に送付された後期高齢者医療被保険者証が届いた方は、同封の「後期高齢者医療制度のしおり」に【ジェネリック医薬品希望シール】がありますので、ぜひ活用してください。

問 保険医療課 医療保険年金係 ☎ お太助フォン 42-5619

効き目、安全性は新薬と同等です。

ジェネリック医薬品は新薬と **同じ有効成分を同じ量使用**しています。また、**たくさんの厳しい試験をクリアし法律や国の基準に沿って製造・管理**されています。

10/1から

芸北広域きれいセンターへのごみ持込時の処理手数料が変わります



燃えるごみ処理手数料(10kg当たり)

	現行	改定後
一般家庭	65円	100円
事業所	90円	125円

問 社会環境課 環境生活係 ☎ お太助フォン 42-1126



隆元が暮らしたとされる郡山城尾崎丸

安芸高田 歴史紀行

あきたかた
れきしきこう

毛利元就入城500年記念



歴史民俗博物館 副館長 秋本 哲治

大江広元と安芸毛利氏 | その6

生誕500年、毛利隆元の出自

今年、現在でも元就の存在に隠れがちな、不運の名将、隆元に焦点を当てます。今回は、現在でも元就の存在に隠れがちな、不運の名将、隆元に焦点を当てます。

隆元誕生の謎

1523年、毛利元就が家督を継承して、吉田の郡山城に入城しますが、同年正室福原氏との間に隆元が誕生しています。しかし、残念ながらその誕生日が不明なのです。

1916年に編さんされた毛利家の記録『もりのしげり』には、隆元の誕生日は記されておらず、郡山城で誕生に生誕地の記録はなく、誕生日が元就の家督相続(8月10日)前であれば、吉田ではなく多治比で生まれた可能性があるため、隆元は生誕地も不明と言えます。

さらに隆元は幼名も不明です。父元就も叔父興元も祖父弘元も幼名が知られていますが、当主でありながら隆元だけは記録がありません。このように、隆元はその出自から謎が多いと言えます。

——千代寿丸(弘元)——幸千代丸(興元)——幸松丸

「松寿丸(元就)——不明(隆元)——幸鶴丸(輝元)」

毛利家当主の幼名

山口での生活と元服

1537年、15歳で元服として巨勢力だった山口の大内義隆の元へ送られます。そして義隆から「隆」を与えられ、「隆元」と称します。それから約4年間、隆元は文化都市だった山口でさまざまな人や文化に触れ、高い教養を身に付けます。絵画や馬術、儀礼など、人質とはいえ武芸や文化を学ぶ「留学」だったとも言えます。特に絵画については、雪舟流の技法を学んだと言われ、自筆の花鳥画が3点伝わっています。

こうした文芸に帰国後も傾倒してタカ狩りもしない隆元に対して、父元就は快く思っておらず、「戦以外は不要で、軍事のみに専念すべき」と記しています。その一方で、元就自身は和歌など文芸への造詣も深く、武将としての教養の必要性も認識していたようです。

隆元の家督相続

1546年、毛利元就は家督を譲り、24歳の隆元が毛利家の当主となります。「かさ(郡山山頂)に移り隆元を後見して引き続き政務に携わった元就に対して、隆元は郡山城内の「本城」を居所とします。しかし後に隆元は「尾崎」と呼ばれたことから、「かさ」に近い「尾崎丸」に移住したと考えられています。

そして1549年、隆元は大内義隆の養女(大内氏重臣、内藤興盛の娘)と婚姻し、彼女が大内氏とのパイプ役となります。1553年には、2人の子があの信長や家康にも対抗する大きな存在となっていく。



『御座備図』(歴史民俗博物館蔵)